

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二五（令和七）年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅰ期〈一日目〉

二〇二五年二月三日（月）実施

国語

I 注意事項

問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。

解答用紙の解答科目欄に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから20ページまであります。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用することは法律で禁じられています。

II 解答上の注意

解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。

マーク式の問題で、「解答はマーク式解答用紙 10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の

例のようにマークしてください。記述式の問題には「解答は 記述式解答用紙」と表示がありますので、記述式の

解答用紙に記入してください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

タレスやアナクシマン드로ス、アナクシメネスといった古代ギリシアの哲学者たちは、一般に「自然哲学者」と呼ばれている。文字通り、自然はといったどういうメカニズムで動いているのか、その原理を「神話」ではなく観察を通した「思考」によって明らかにしようとした人たちだ。

哲学 (philosophy) の語源は、*philia* (愛) と *sophia* (知)。古代においては、知を愛し探究することは、なんでも哲学とされていた。(a)、今なら「自然科学者」と呼ばれる人たちもまた、当時は「自然哲学者」と呼ばれていたのだ。

彼ら自然哲学者たちは、満足な実験道具も技術も持っていなかった。だから、もっぱら「考える」ことに頼って世界の謎に取り組んだ。

今の科学から見れば、それはほとんど子どもだましみたいなものだ。だからその観点からいえば、古代の自然哲学は、(b) 科学に取って代わられたといえるかもしれない。

いや、むしろ、自然哲学は自然科学へと「進化」したのだというべきだろう。宗教が哲学のお母さんだったように、哲学もまた、その思考や方法(観察・実験など)の進展に伴って、近代の科学を生み出すことになったのだ。

でもその一方で、哲学は科学とは別の方向にも自らを進化させてきた。

その生みの親こそ、タレスら自然哲学者たちから一世キあまり後に登場した、西洋哲学の父ソクラテス(とその弟子プラトン)だった。

ソクラテスはこんなことを考えた。

哲学が真に考えるべき問題、それは、自然哲学が問うているような「自然」や「世界」についてじゃない。(c)、この世界を問うているわたしたち「人間」自身である！

古代ギリシアのアポロン神殿には、「汝^{なんじ}自らを知れ」という(1) カクゲンが刻まれていた。ソクラテスは、まさにこれこそ、哲学が探究すべき根本テーマだといったのだ。

「外」から「内」へと目を向けること。これはある意味では、人間の精神が幼年期から青年期へと成長したことのあらわれだったともいえる。

赤ちゃんや子どもは、いつでも「外」の世界に(2) キョウミシンシンだ。虫や葉っぱや土なんかをさわって、大げさにいえば、世界がどうなっているのかを知ろうとする。

(d)、思春期をむかえるころから、僕たちはだんだんと自分自身に目を向けるようになる。「どんな人生を生きるべきだろう?」「自分には何が向

いているんだろう?」「幸せってなんだろう?」そんなことを考えるようになる。

自然哲学からソクラテス哲学への展開もまた、おそらくはそれと同じような出来事だったのだ。

(e)、ソクラテスが生きたのと同じ⁽³⁾ キゲンゼン五世キ頃、中国には孔子が、インドには仏陀^{ブッダ}が登場している。彼らもまた、「人間とは何か?」「人生はどう生きるべきか?」といった、まさに「人間」について考えた人たちだった。

(ア) 同じ時代、同じような問いを考えた人たちが、不思議なことにまったく異なる文明に現れた。

今から二五〇〇年前、人類は⁽⁴⁾ トツジョとして⁽¹⁾ 知の大革命を経験したのだ。

ソクラテスの考えを、哲学と科学の関係という観点から、僕なりに大胆にいい直してみたい。

科学が明らかにするのは、いわば「事実の世界」のメカニズムだ。それはたとえば、物を手放せば落ちるとか、DNAは二重らせん構造をなしているとか、人は恋をしている時、脳の腹側被蓋野^{ふくそくひがいや}が活性化しているとか、フェニルエチルアミンやドーパミンが⁽⁵⁾ ブンピツ^{ブンピツ}されているとかいった、文字通り「事実」の世界だ。

それに対して、哲学が探究すべきテーマは、「真」「善」「美」をはじめとする、人間的な「意味の世界」の本質だ。

「ほんとう」のことってなんだろう?」「よい」ってなんだろう?」「美しい」ってなんだろう?」そして、「人生いかに生くべきか?」

こうした意味や価値の本質こそ、哲学が解き明かすべき問いなのだ。

僕たちは、科学が対象とする「事実の世界」だけでなく、豊かな「意味の世界」もまた同時に生きている。恋をした時の僕たちは、フェニルエチルアミンがどうというより、その味わい深い恋の「意味の世界」をこそ生きている。

哲学者の西研⁽¹⁹⁵⁷⁾がいうように、科学は、恋をしている人の脳からどんな化学物質が出ているかを明らかにすることはできる。でも、僕たちにとって恋とはいったい何なのか、その「意味」の本質については、ほとんど何も教えてはくれない(『哲学的思考』)。

(ウ) それを明らかにするのは、哲学の仕事なのだ。

さらにいえば、哲学が探究する「意味の世界」は、実は科学が探究する「事実の世界」に原理的に先立つものだ。

え? どういうこと?

と、多くの人は疑問に思うんじゃないかと思う。

僕たちの多くは、ふだん、世界は科学的な法則に支配されていると思い込んでいる。天体法則とか人体のメカニズムとか、脳の働きとかDNAの仕組みと

か、そういった「事実」こそが先にあるのであって、「意味」は、そうした事実人間があとからくつつけたものだと考えている。でも、事態はまるっきり逆なのだ。

というのも、いわゆる「事実」は、僕たちの「意味の世界」のアンテナにひっかからないかぎり、決して「事実」として認識されることがないからだ。たとえば、天体法則という「事実」が存在するのは、僕たちがこの法則に「意味」を見出しているからだ。

太古の昔から、人類は農耕を行うためにそのメカニズムを知る必要があった。あるいはその「美」に魅せられて、天体を観察しつづけてきた。

同じように、人体のメカニズムを僕たちが知っているのは、それが僕たちにとって意味あるものであるからだ。健康や長寿に「意味」を見出しているからこそ、人類はその謎に挑みつづけてきたのだ。

もしも僕たちが、こうした「意味」のアンテナを持っていなかったなら、天体法則や人体メカニズムといった「事実」は、僕たちにとって存在することさえなかっただろう。

いやいや、それはそうかもしれないけど……と、まだ腑に落ちない方も多いだろう。

たしかに、「事実」は僕たちの「意味」のアンテナにとらえられないかぎり、僕たちにとって存在しないのかもしれない。でも、たえそうだったとしても、天体法則はやっぱり客観的に存在するし、DNAは太古の昔から二重らせん構造をなしていたんじゃないの？ つまり、科学的な事実、人間がいようがいまいが、やっぱり客観的な事実といえるんじゃないの？ そう思う人もいるだろう。

でもそれは本当だろうか？

極端な話をすれば、もしも人類よりはるかに知能が進んだ宇宙人がいたとしたら、彼らの住む「事実の世界」は、僕たちの世界とは大きく異なっているだろう。三次元や四次元どころか、彼らは二〇次元くらいの世界に生きているかもしれない。その世界では、DNAは二重らせん構造をなしていないかもしれないし、時間だって存在していないかもしれない。

いや、そんなとつびな例を持ち出さなくても、もっと身近な、たとえば犬やネコやカラスなんかを考えてみてもいい。

犬やネコは、人間のように色は認識できないといわれている。一方カラスは、人間には認識できない紫外線を認識できるという。だから、どうやらお互いを黒色とは認識していないらしい。

要するに、犬やネコやカラスは、僕たちにとっての「事実の世界」と、いくらか異なった世界を生きているのだ。

それはつまり、(三)僕たちもまた、「僕たちにとっての事実の世界」をしか生きられないということだ。

哲学者のニーチェ（1844～1900）は、次のような有名な言葉を残している。

まさしく事実なるものではなく、あるのはただ解釈のみ

と。そしていう。

事実がありうるためには、一つの意味が、つねにまず置き入れられていなければならない

と。『権力への意志』

僕たちは、僕たちの「意味の世界」に照らし出されたかぎりにおいてしか、「事実の世界」を知ることとはできないのだ。

（オ）無色透明な「事実の世界」（客観的な真理）なんて、僕たちは決して知り得ない。それはいつも、僕たちの「意味の世界」の色を帯びているのだ。これが、「意味の世界」は「事実の世界」に原理的に先立つということの意味だ。

（苦野一徳『はじめての哲学的思考』による。一部改変。）

問1 傍線部（1）～（5）のカタカナを漢字に改めよ。解答は記述式解答用紙。

（1） カクゲン

（2）

キョウミシンシン

（3）

キゲンゼン

（4）

トツジョ

（5）

ブンピツ

問2 空欄（a）～（e）に入れる語として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つずつ選べ。解答番号は a 〓

c 〓 3

d 〓 4

e 〓 5

b 〓 2

① でも

② ところで

③ むしろ

④ だから

⑤ たしかに

⑥ ちなみに

問3 傍線部(ア)「同じ時代、同じような問いを考えた人たちが、不思議なことにまったく異なる文明に現れた」と著者がとらえる理由はなにか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

- ① ソクラテスの考える“人間”哲学が、急速に世界中に普及していったから。
- ② 赤ちゃんと子ども程度の知能しか持たなかった人類が、急に成長したから。
- ③ 「汝自らを知れ」という神の言葉に、世界中の哲学者が感銘をうけたから。
- ④ 人間の精神が幼年期から青年期へ成長する時期を迎えたと考えられるから。
- ⑤ 西洋哲学も東洋哲学も共に“人間の心”というテーマを探究しているから。

問4 傍線部(イ)「知の大革命」の具体的内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- ① それまで“外”のを中心に思考を重ねてきた自然哲学者たちが“内”にも目を向け始め、観察や実験をするようになったということ。
- ② 「自然哲学者」が「自然科学者」と呼ばれるようになり、やがて「哲学者」として“人間”について目を向けるようになったということ。
- ③ 哲学が真に考えるのは、観察を通じて自然や世界の謎を明らかにすることではなく、それを問う“人間”自身であるべきだ、ということ。
- ④ 古代では、知を愛し、探究することはみな哲学とみなされていたが、のちに自然哲学・科学・人間哲学に細分化されていったということ。
- ⑤ 自然哲学者が“内”なる自然に目を向けることの重要性に気づき、世界中で一斉に“外”から“人間”を捉えるようになったということ。

問5 傍線部(ウ)「それを明らかにするのは、哲学の仕事なのだ」とあるが、「それ」が指示する内容を本文の語句を使って10字以内で答えよ。

解答は 記述式解答用紙。

問6 傍線部(エ)「僕たちもまた、「僕たちにとっての事実の世界」をしか生きられないということだ」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

- ① 僕たちは、「意味」あるものとしてとらえた「事実」の中でしか生きられない、ということ。
- ② 僕たちはそれぞれが「事実」の中の「意味」を見出すことによって生きている、ということ。
- ③ 僕たちは「事実」を科学的に理解して、「意味」を持たせることで生きている、ということ。
- ④ 僕たちは「事実」ではなく「意味」の味わい深さを重視することで生きている、ということ。
- ⑤ 僕たちは「意味」の本質を客観的な「事実」に求めることでしか生きられない、ということ。

問7 傍線部(オ)「無色透明な「事実の世界」とはどのような世界か。「事実の世界」という語で終わるよう、本文の語句を使って40字以内で説明せよ(ただし、読点も一字に含む)。解答は 記述式解答用紙。

(40字以内)

事実の世界。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

篤子と「私（志摩）」は、六十年前中学校で知り合ってから以来の親友である。「私」は二年前に夫を亡くし、子どももおらず一人暮らしをしている。篤子は、夫（敬）と『ななつ星』の旅に行く予定だったが、出発一週間前に、夫が腰を痛めて行けなくなった。その夫の代役として「私」は篤子とともに『ななつ星』に乗っている。

『ななつ星』は、JR九州が運行する九州各地をめぐる観光寝台列車。チケットがなかなか取れないことでも知られている。

『ななつ星』の旅は素晴らしいもので、本当に来てよかった。篤子と私が子どもみたいにはしゃいで、うつくしい（エ）意匠のほどこされた客室内を仔細にあらため、案じていたほどの揺れはなかったので、べつの客車にまで遠征し、通路に飾られた絵やオブジェを眺めて歩いた。『ななつ星』は客車ごとに通路の内装も変えているほどの凝り具合で、線路を走る高級ホテルといった趣があった。

とはいえ、（イ）肩肘張ったところはまるでない。私は当初、「乗客の大半はものすごいお金持ちばかりだろうし、乗務員さんもツンと澄ましているんでしょ」などと予想し、その点だけは気が重かったのだが、実際はそんなことはなかった。乗客同士が無理やり仲良くしなければいけないような雰囲気はまったくなく、どのひともし節度を持ってほかの客としゃべったり適切な距離を置いたりするので、それぞれの詳しい背景はよくわからない。ただ、客はみな、自分にとって大切なひとと、かけがえのない旅の時間を過ごすために、仕事やお金をやりくりして『ななつ星』に乗車したのだと見受けられた。想像のなかに棲息する、「乗務員さんに無理難題をふっかける傲慢な金持ち」など一人もいない。乗務員さんたちもまた、慎重と配慮をもって、けれど「自宅に友人が親戚が来た」かのように、ぬくもりに満ちた（ウ）気の置けない接客をしてくれる。

（エ）マニュアルなどないみたいない心のこもった振る舞いに、篤子も私もすっかりリラックスし、そうかと思えば、さきほどまでにこやかに接客をしていた乗務員さんが作業着に着替え、真剣な表情で機関車の入換をするのを、停車した『ななつ星』の窓から眺めて驚くのがあった。聞けば、乗務員さんのなかには車掌さんの資格を持ったひとといって、接客のみならず列車の運行にも携わるのだという。

初日の夜、乗務員さんが客室のソファをのばして、ベッドに変身させてくれた。清潔なリネンがピンと敷かれた二台のベッドに横たわり、篤子と私はいつまでもおしゃべりに興じた。

「修学旅行みたい」

と篤子は言った。

「そういえば高校生のとき、修学旅行で寝台列車に乗って九州に行ったわね」

と私は遠い記憶を引っ張りだした。「あのときはたしか、二段ベッドだったけれど」

「あーそうだった、そうだった。あれはもう……半世以上まえ!？」

篤子は「ひえー」と笑う。「私たち、ずいぶん出世した感じがするね」

「一生に一度ぐらい、豪華な旅をしてもバチは当たらないんじゃないかしら。でも、あなたはもう一度、敬さんとこの列車に乗りなさいよ。すごく楽しいもの」

「あのひとは、べつとこに行けばいいわよ」

篤子はゆるゆると寝返りを打ち、私のほうに体を向けた。「もう一度乗れるなら、また志摩ちゃんがいい。あなたと一緒にだから楽しいの」
薄暗がりのなか、篤子の目がきらめいている。(オ)私は篤子のその言葉には返事をせず、優雅なアーチを描く天井を見上げた。

夫よりも長い時間、ともに生きてきたひと。若いころのお互いも、どんな喜びや苦しみを味わいながら年を重ねたかも、ほとんどすべてを知り、分けあってきたひと。

列車は夜の線路をことこと走る。風向きによるのだろうか、たまに機関車のがんばるオイルの香りがほのかに鼻をよぎって、(カ)なんだか大きくて優しい獣みたいだと思う。

篤子と『ななつ星』に乗ることができて、私は幸運かつ幸福だ。

バーと化した「ブルームーン」では、まだまだ乗客の歓談がつづき、ピアノとバイオリンが奏でる心地よい音楽が流れている。

「ねえ、さっき何を見てたの？」

篤子がグラスを揺らした。グラスには、雲間から差す日の光とそっくりな色をしたカクテルが入っている。宮崎で採れた柑橘類かんきつを使って、乗務員さんが作ってくれたものだ。九州各地の名産品を、手のこんだお料理や飲み物で味わえるのも、(キ)目にも舌にもうれしいことだった。特に篤子は専業主婦で、あまり遠出の機会もなく、長らく子どもや孫の世話に追われてきたから、おいしくめずらしい食材の数々にすっかり浮き立っている。家事をしなくていい解放感も手伝ってか、食事やバータイムのたびにいろんなカクテルを試していた。おっとりしているようで、案外酒豪なのだ。

「外はもうすっかり暗いのにな」

たしかにそうだ。窓は黒い鏡のようになってひさしく、たまに街灯や踏切の赤い警告灯や人家の明かりがよぎるほかは、室内で語らう人々の姿を映しだ

すばかりだ。

『ななつ星』は、客室や「ブルームーン」、ダイニングカーである「木星」はもちろんのこと、通路にも大きな窓があつて、篤子と私は部屋でおしゃべりするときも、通路を歩いているときも、「木星」で食事をするときも、車窓からの風景を飽かず眺めていた。工場の向こうに垣間見える波の輝き。窓ぎりぎりまで迫った山の緑。畑で作業をするおばあさん。マンションのベランダで孫を抱っこしたおじいさん。列車と併走する牛の絵が描かれたトラック。庭で揺れる色とりどりの洗濯物。庇ひさしの下に乗り捨てられた三輪車。持ち主はきつと、おやつでも食べに家へ駆けこんだのだろう。

『ななつ星』が通るのを見て、沿線から笑顔で手を振ってくれるひとも多く、私たちも夢中で手を振り返した。窓がつぎつぎに映しだすひとの営みも、変化に富んだ地形も、うつくしくいとおもしろいものばかりだ。私たちはいま、つかのまの夢のような旅のさなかにあるけれど、私たちがもっていたところ、(しこ)の列車から降りて帰っていく「日常」も、決してつらく退屈なだけの場所ではなかったのだと、気づくのに十分な光景だった。篤子は夕方、保育園の園庭で遊ぶ小さな子どもたちに手を振りながら、「ああ、もう日が暮れちゃう」と名残惜しそうにつぶやいていた。

私は熊本産の白ワインを飲み干し、

「星を見た」

と答える。

「え、見える？」

テーブルに腕をつき、窓のほうへ身を乗りだそうとした篤子を制し、

「これ」

と窓際に設置されたスタンド型の照明を指す。ドーム状の笠かさを持つ、キノコみたいな形をした愛らしいスタンドは、各テーブルの窓辺にひとつずつついている。車内から見ると、笠は白い無地なのだが、車外に向いているほうは星のマークが刻まれていて、夜になると窓に映る仕掛けだ。

「そうだねえ、星だ」

篤子は指先でスタンドを軽くつついた。「夜、走っている『ななつ星』を外からも見てみたい。きつときれいでしょね」

窓ごとに灯った淡い光に浮かびあがる、黒い星。(し)流れゆくその星の列を、笹藪はさやぶのなかから不思議そうに眺めるタヌキの親子がいるだろう。

(三浦しをん『夢の旅路』による。一部改変。)

問1 傍線部(ア)「意匠」、(イ)「肩肘張った」、(ウ)「気の置けない」の意味について、各群の①～⑤のうちから、最も適当なものをそれぞれ一つずつ選べ。解答番号はアⅡ 9、イⅡ 10、ウⅡ 11。

(ア) 意匠

- ① 先端技術 ② 職人技 ③ シンボル ④ 心遣い ⑤ デザイン

(イ) 肩肘張った

- ① 独り善がりな ② 気負った ③ 緊張した ④ 閉鎖的な ⑤ 高級で上品な

(ウ) 気の置けない

- ① 隅々まで行き届いて完璧な ② 何となく油断できない感じでくつろげない ③ 遠慮の要らない心から打ち解けた
④ 陽気で気さくで底抜けに明るい ⑤ 適度な緊張感をともなった礼儀正しい

問2 傍線部(エ)「マニュアルなどないみたいなのこもった振る舞い」とは、どのような振る舞いか。次の空欄にあてはまる語句を20字以内で書け。

解答は 記述式解答用紙。

誰かにやらされている感じではなく、

振る舞い。

問3 傍線部(オ)「私は篤子のその言葉には返事をせず」とあるが、その理由について、次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 篤子が大袈裟^{げさ}な言い方で自分を誘ってくることを鬱陶しく感じ、これからは少し距離を取って付き合いたいと思ったから。
- ② 高校時代にもどったようにはしゃいでいる篤子の気持ちの高ぶりに、同調するタイミングを失ってしまったから。
- ③ 篤子からストレートに好意を明らかにされたことが照れ臭く、その喜びをじっと一人で嘔^かみしめたかったから。
- ④ せっかく気を遣って夫婦での旅行を勧めたのに、独り善がりな態度の篤子に腹を立てたから。
- ⑤ 篤子とこれ以上仲よくすると、彼女の夫婦関係に悪影響を与えるのではないかと心配したから。

問4 傍線部(カ)「なんだか大きくて優しい獣みたいだと思う」とあるが、「私」が『ななつ星』をこのように思う理由について、次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 電動ではなくオイルを燃やして走る機関車が、年配者には懐かしく、現在のように快適でなかった鉄道の思い出がよみがえるから。
- ② 客車ではその快適な車内に客を包みこんで、優雅にもてなしてくれる一方で、機関車には、底知れぬパワーが感じられるから。
- ③ 夜も昼もどんな場所でも、余裕で走り続ける列車に、偉大な生きものに対して感じるような畏敬の念を自然に抱くようになったから。
- ④ 九州の野山を力強く疾走する姿が野性的であるとともに、乗務員によるきめ細かな管理の下で運行されていることが感じられるから。
- ⑤ 他の列車にはない品格をそなえた、特別な列車であるというプライドが、客車だけでなく機関車の匂いにまで感じられるから。

問5 傍線部(キ)「目にも舌にもうれしい」とはどういうことか。20字以内で書け。解答は 記述式解答用紙。

問6 傍線部(ク)「この列車から降りて帰っていく「日常」も、決してつらく退屈なだけの場所ではなかったのだと、気づくのに十分な光景だった」とあるが、「私」がこのように感じた理由について、次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 列車の窓からは、美しい自然が広がっている光景が見え、自分たちの日頃の生活が素晴らしい環境で営まれていることが分かったから。
- ② 列車の窓からは、名もない人たちが懸命に生きている姿が垣間見られ、自分も頑張っているという前向きな気持ちになれたから。
- ③ 列車の窓からは、自分たちに手を振る沿線の人たちが見え、その心温まる光景は旅から日常に戻っても忘れないと思えたから。
- ④ 列車の窓からは、身近な誰かを思いやる様々な人たちの姿が見られ、日常生活が人々の絆で成り立っていることに気づいたから。
- ⑤ 列車の窓からは、沿線の人たちの暮らしている姿が生き生きと輝いて見え、日常生活がかけがえのない大切なものと思えたから。

問7 傍線部(ケ)「流れゆくその星の列を、笹藪のなかから不思議そうに眺めるタヌキの親子がいるだろう」という一文がもたらす表現の効果について、次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 絵本の中に登場するような動物の気持ちになることで、「私」が親友との旅で思わず童心に帰ったことを感じさせる。
- ② メルヘンのような想像上の場面によって、日常を離れたロマンチックで幻想的な列車の時空を感じさせる。
- ③ 第三者の視点で、旅の終わりが近づきもの哀しい気持ちになっている「私」の心情を、感傷に流されずに客観的に感じさせる。
- ④ タヌキの親子を描くことによって、旅から帰っても迎えてくれる家族が誰もいない「私」の淋しさを感じさせる。
- ⑤ 野生の動物が登場する場面を想像することで、旅をした九州の各地の自然が豊かだったことを感じさせる。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

【大学】情報工学科

経済学科

経営学科

文学科（英米文学専攻・心理学専攻）

教育学科

芸術学科

スポーツ科学科

栄養学科

【短大】現代教養学科

食物栄養学科

幼児教育学科

上記学科・専攻の受験者は、第3問を解答しなさい。

（14 ページ～16 ページ）

【大学】文学科（日本文学専攻、歴史学・考古学専攻）の受験者は、第4問【古文】を解答しなさい。

（17 ページ～20 ページ）

次の資料1は、厚生労働省の適正な睡眠の確保に関する意識調査の一つである。資料2は、この結果を踏まえて作成されたGood Sleepガイド

ドである。次の二つの資料を読み、【条件】に従って、日本人の睡眠の現状の問題点と適切な睡眠について 240 字～300 字でまとめよ（ただし、句読点も一字を含む）。解答は 記述式解答用紙。

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

- ① 常体で書くこと。
- ② 文のねじれや誤字・脱字がないように書くこと。
- ③ 男女別に睡眠の確保の妨げとなっている要因を書くこと。
- ④ Good Sleep ガイドから必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かぎカッコ（「 」）でくくること。

資料1 睡眠の確保の妨げになる点
(20歳以上、性・年齢階級別、複数回答)

		20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70 歳以上
男性	仕事	34.1	42.1	38.8	35.9	14.2	4.3
	家事	0.9	4.3	3.0	1.5	1.2	0.3
	育児	2.3	6.7	4.7	0.5	0.0	0.1
	介護	0.0	0.0	0.5	1.0	0.9	1.1
	健康状態	5.9	5.9	8.4	10.7	12.8	17.9
	通勤・通学の所用時間	8.6	5.1	7.0	7.0	1.8	0.5
	睡眠環境（音、照明など）	5.9	3.9	4.9	5.1	3.7	3.7
	就寝前に携帯電話、メール、ゲームなどに熱中すること	43.2	26.8	18.2	10.7	4.4	1.8
	その他	9.5	6.7	11.7	11.4	16.5	13.9
	特に困っていない	25.2	30.7	32.9	41.5	55.8	63.1

		20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70 歳以上
女性	仕事	28.0	19.1	22.8	22.7	10.4	3.2
	家事	4.0	23.5	28.8	18.9	9.5	3.3
	育児	12.4	30.9	14.3	1.5	0.8	0.2
	介護	0.0	1.0	0.4	2.9	5.0	2.2
	健康状態	7.6	6.4	8.7	11.9	9.5	15.3
	通勤・通学の所用時間	10.7	2.3	2.8	1.5	0.8	0.1
	睡眠環境（音、照明など）	4.9	8.7	7.0	8.3	4.8	4.8
	就寝前に携帯電話、メール、ゲームなどに熱中すること	42.7	26.8	18.8	11.4	5.8	1.7
	その他	8.4	9.4	11.1	17.7	22.2	18.7
	特に困っていない	23.1	26.5	33.0	36.8	50.4	58.1

厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査の概要」より作成、一部改変。

表内の数字は％を表す。

資料2 「成人のための Good Sleep ガイド」

毎日をすこやかに過ごすための

睡眠5原則

— 成人版 —

第1原則

適度な長さで休養感のある睡眠を
6時間以上を目安に十分な睡眠時間を
確保

第2原則

光・温度・音に配慮した、
良い睡眠のための環境づくりを心がけて

第3原則

適度な運動、しっかり朝食、
寝る前のリラック스로
眠りと目覚めのメリハリを

第4原則

嗜好品とのつきあい方に気をつけて
カフェイン、お酒、たばこは控えめに

第5原則

眠れない、眠りに不安を覚えたら
専門家に相談を

睡眠環境・生活習慣・嗜好品に気をつけて、
Good Sleepを！

成人のための Good Sleep

— 健康づくりのための睡眠ガイド2023 —

睡眠時間と睡眠休養感を確保して健康寿命を延ばそう



良い睡眠には、量(時間)と質(休養感)が重要です

睡眠は最も重要な休養行動です。

睡眠時間は長すぎても短すぎても健康を害する原因となり、
朝目覚めた時に感じる休まった感覚(睡眠休養感)は
良い睡眠の目安となります。

例えば、日中にしっかりからだを動かし、
夜は暗く静かな環境で休むといった、
寝て起きてのメリハリをつけることは、
睡眠休養感を高めることに役立ちます。

睡眠時間を確保し、睡眠休養感を高める工夫を
日常生活に取り入れましょう。

厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課「成人のための Good Sleep ガイド」より作成、一部改変。

第4問【古文】 次の文章は鎌倉時代の歴史を描いた『増鏡』の一節である。これを読んで後の問いに答えよ。

(注1) 督は日にそへて人にも背けられ行くに、いといみじき病ひをさへして、(注2) 建仁三年九月十六日年二十二にて、(a) 頭おろす。世の中残り多く、何事もあたらしかるべき程なれば、さこそ口惜しかり A。幼き子の一万といふにぞ、世をばゆづりけれど、うけひくものなし。入道はかの病ひつくるはんとて、鎌倉より伊豆の国へいで湯あびに越したりける程に、かしこの修善寺といふ所にてつひに討たれぬ。一万もやがて失はれけり。これは(注3) 実朝と(注4) 義時と一つ心にてたばかりけるなるべし。

さて、今はひとへに、実朝、(注5) 故大将のあとをうけつぎて、官・位とどこほる事なく、よろづ心のままなり。(注6) 建保元年二月二十七日、正二位せしは、閑院の内裏つくれる賞とぞ聞き侍りし。同じ六年、権大納言になりて左大将を兼ねたり。左馬寮をさへぞ付けられける。その年やがて内大臣に成りても、なほ大将もとのままなり。父にもややたちまさりていみじかりき。この大臣は大方心ばへうるはしく、たけくもやさしくも、よろづめやすければ、(ア) ことわりにも過ぎて武士のなびき従ふさまも代々にこえたり。いかなる時にかありけん、

(イ) 山はさけ海はあせなむ世なりとも君にふた心わがあらめやもとぞ詠みける。

(注7) 時政は建保三年かくれにしかば、義時はあとを継ぎける。故左衛門督の子にて、公暁といふ(注8) 大徳あり。親の討たれにしことを、いかでか安き心あらん。いかならん時かとのみ思ひわたるに、この大臣(b) また右大臣にあらりて、大饗きやうなど珍しく東にて行ふ。京より尊者をはじめ、上達部・殿上人多くとぶらひいましけり。さて鎌倉にうつし奉れるやはたの御社に神拝に詣づる、いとかめしき響きなれば、国々の武士は更にもいはず、都の人々も扈從こしやうしけり。たち騒ぎののしる者、見る人も多かる中に、かの大徳うちまぎれて、(ウ) 女のまねをして、白き薄衣ひきをり。大臣の車より降るる程を、さしのぞくやうにぞ見えける。あやまたず首をうち落としぬ。その程のどよみいみじさ、思ひやりぬべし。かくいふは(注9) 承久元年正月二十七日なり。(c) そこらつどひ集まれる者ども、ただあきれたるより外の事なし。

(注) 1 督 —— ここでは「左衛門督」に同じ。源頼家(一一八二～一二〇四)。鎌倉幕府二代将軍。

2 建仁三年 —— 一二〇三年。

3 実朝 —— 源実朝(一一九二～一二二九)。鎌倉幕府三代将軍。

- 4 義時——北条義時（一一六三～一二二四）。鎌倉幕府二代執権。
- 5 故大将——源頼朝（一一四七～一二九九）。鎌倉幕府初代将軍。
- 6 建保元年——一二一三年。
- 7 時政——北条時政（一一三八～一二一五）。鎌倉幕府初代執権。
- 8 大徳——僧。
- 9 承久元年——一二一九年。

問1 二重傍線部（a）～（c）の解釈として最も適當なものを、それぞれ①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は a ㌖ 16、b ㌖ 17、c ㌖ 18。

（a）「頭おろす」

- ① 辞職する ② 元服する ③ 謝罪する ④ 出家する ⑤ 引退する

（b）「また」

- ① すぐに ② ふたたび ③ さらに ④ とうとう ⑤ 同じく

（c）「そこら」

- ① 向こう側に ② 何人か ③ 高貴な姿で ④ その辺りに ⑤ たくさん

問2 空欄 A に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 19。

- ① けむ ② めり ③ ける ④ けめ ⑤ けり

問3 傍線部(ア)「ことわりにも過ぎて武士のなびき従ふさまも代々にこえたり」とは、どのような様子を表現したものか。説明として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 20。

- ① 実朝が、あまりに慎重な人物であるので、武士たちが次第に離反している様子。
② 実朝が、常識では考えられないくらいに、武士たちからの支持を歴代のだれよりも集めている様子。
③ 実朝が、道義的にすばらしい人物であるので、武士たちの支持が徐々に増している様子。
④ 実朝が、数々の不道徳な行いをしたため、武士たちがこれまでの時代以上に当惑している様子。
⑤ 実朝が、右大臣になることを何度も辞退するため、武士たちが代わるがわる説得している様子。

問4 傍線部（イ）「山はさけ海はあせなむ世なりとも君にふた心わがあらめやも」の和歌に関する説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 21。

- ① 後鳥羽上皇に対して忠誠を誓う気持ちを述べた和歌である。
- ② 第二句「海はあせなむ」の「なむ」は助詞で、強調の意味がある。
- ③ 第三句「世なりとも」の「とも」は助詞で、逆接仮定条件を表す。
- ④ 第五句「わがあらめやも」には反語表現が含まれている。
- ⑤ この和歌は『金槐和歌集』にも収められている。

問5 傍線部（ウ）「女のまねをして」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 22。

- ① 女性の姿をした方が、群衆の中に容易に紛れ込むことができると考えたため。
- ② 女性の後に付いていった方が、怪しまれないと考えたため。
- ③ 女性のふりをすれば、実朝の姿を覗き見る^{のぞ}ことができると考えたため。
- ④ 女性の姿であれば、顔を隠していても不自然ではないため。
- ⑤ 女性らしい優美な服装の方が、華々しい場の雰囲気に合わせていると考えたため。

問6 『増鏡』と同じく歴史物語に分類される作品を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 23。

- ① 『源氏物語』
- ② 『栄花物語』
- ③ 『伊勢物語』
- ④ 『竹取物語』
- ⑤ 『平中物語』

2025(令和7)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
一般選抜Ⅰ期（1日目／2025年2月3日実施）
解答例【マーク式】

国語 【国語総合】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	④	2
	2	⑤	2
	3	③	2
	4	①	2
	5	⑥	2
	6	④	3
	7	③	3
	8	①	3
第2問	9	⑤	2
	10	②	2
	11	③	2
	12	③	3
	13	②	3
	14	⑤	4
	15	②	4

国語 【国語総合+古文】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	④	2
	2	⑤	2
	3	③	2
	4	①	2
	5	⑥	2
	6	④	3
	7	③	3
	8	①	3
第2問	9	⑤	2
	10	②	2
	11	③	2
	12	③	3
	13	②	3
	14	⑤	4
	15	②	4
第4問	16	④	2
	17	③	2
	18	⑤	2
	19	④	3
	20	②	3
	21	②	3
	22	④	3
	23	②	2

マーク	39
記述	61
計	100

マーク	59
記述	41
計	100

記述式解答用紙 「国語」

解答例

志望学科	受験番号
学科	氏名
専攻	専攻

※専攻は「経済学科」「文学科」「教育学科」受験の場合に記入してください。

第1問

4	1
突如	格言
5	2
分泌	興味津々
	3
各3点	紀元前

問5

恋
の
”
意味
”
の本質
10点
6点

問7

の	人
と	間
し	が
て	い
存	よ
在	う
す	が
る、	い
	ま
特	い
別	が
な	関
意	係
味	な
を	く
も	客
た	観
な	的
い	な
	も
40	20
10点	

第2問

問2

心
か
ら
の
思
い
や
り
が
感
じ
ら
れ
る
と
て
も
自
然
な
20
6点

問5

見
た
目
も
美
し
く
味
も
お
い
し
い
と
い
う
こ
と
20
4点

※第3問の解答欄は裏面です。

第3問 (横書き)

資料	20～	60代	に、	中	り、	多	家	事	こ	Sleep	時	睡		
1	50代	以降	30～	目	20代	30	要	60代	う	ガイ	と	改		
によ	で	は	30代	立	で	～	因	代	な	ド	質	を		
れ	「	「	代	っ	は	40	が	以	結	を	（	呼		
ば	仕	健	で	。	「	代	大	降	果	作	休	び		
、事	康	は	一	方	「	仕	で	き	は	を	成	養	か	
男	」	状	「	携	事	は	く	「	踏	し	感	け		
性	が	態	携	、	」	「	な	健	ま	、	）	て		
の	30	」	帯	女	や	育	る	康	え	「	重	い		
睡	～	が	電	性	「	児	。	状	、	良	要	。		
眠	40	主	話	は	携	・	50	態	厚	い				
を	%	因	や	世	帯	家	代	」	生	睡	」			
妨	と	と	ゲ	代	電	事	で	が	労	眠	と			
げ	最	な	ー	ご	話	」	は	主	働	に	し			
る	多	る	ム	と	な	と	再	因	省	は	て			
要	だ	。	へ	に	ど	い	び	と	は	、	国			
因	が	さ	の	異	」	っ	「	な	Go	量	民			
は	、	ら	熱	な	が	た	仕	る。	od	（	に			

240

300

20 点